

## 創価大学に対する大学評価結果ならびに認証評価結果

<教育学部・教育学部（通信教育部）>

### 教育内容・方法

#### （１）教育課程等

##### 教育学部

教育内容に関しては、教員免許法の定める教科に関する科目および教職に関する科目に過不足なく授業科目が開設されている点、学校インターンシップなど実践的指導力を備えた教員の養成という目標に対応する科目が開設されている点、また、学校現場との連携による教職キャリア形成という取り組みが「大学・大学院における教員養成推進プログラム（教員養成GP）」に採択されており、評価できる。

また、教員採用試験の合格者数の多さは、教育内容の妥当性を証明していると見なされるが、教員免許取得を卒業要件としていないことから、取得しない場合の科目の系統性に不明瞭な点が残る。

#### （２）教育方法等

##### 教育学部

授業評価アンケートが、学生自身の学習の評価と授業の評価にわたっている点、結果が公開されている点、学部学生との意見交換の場も設けられている点は評価できる。また、CETLの活動において、教育学部の教員が中心的役割を果たしている点も評価できる。

留年率が比較的低い点、教員就職率が高い点は教育内容・方法の妥当性を示している。

#### （３）教育研究交流

##### 教育学部

共通科目としての言語科目8単位の修得を卒業要件としている点は、教育系学部が資格取得に比重を置きすぎる傾向が指摘されるなかで、教育目標に掲げる国際化に対応するものとして判断できる。

短期語学研修参加者は、学部の規模を考えれば多く、交換・推薦留学者数も、教員養成を主たる目的としている学部としては多い。教員レベルの研究交流も、特別支援教育、教員養成の国際比較研究などに特色が見られ、「大学教育の国際化推進プログラム（海外先進研究実践支援）」に採択されている点は評価できる。

#### （４）通信教育部

## 教育学部

教員免許法に定められた教科に関する科目と教職に関する科目にわたってバランスよく授業科目が配当されており、資格取得希望者が多いと考えられる教育学系の通信制課程としては十分な教育内容である。また、通信制課程という制約を考慮した自立学習入門、建学の理念を学ぶ人間教育論など、教育内容上の工夫が見られる。さらに、eラーニングが導入されていることは、教育方法改善の努力として評価できる。

特に、教育学部において定員をかなり上回る学生を受け入れているが、レポートの添削などにかかわる兼任講師を採用している点は、教育の質を保証するとともに専任教員の教育負担の過重を防ぐ方策として評価できる。

## 学生の受け入れ

### 教育学部

学部においては、全学の方針にしたがい、幅広い手段による学生の受け入れ方針を定めている。ただし、制定後の方針の再検討などは行われていない。定員管理に関しては、学部の在籍学生数比率は両学科とも高く助言の対象に近いが、履修制限や厳格な成績評価の結果としての留年生の増加が影響していると思われ、定員増などの改善を試みており、今後もその動向を見守られたい。

## 研究環境

### 教育学部

個人研究費は潤沢とまではいえないが妥当なレベルにあり、専任教員の個人研究室は確保され、在外研究制度や特別研究員制度も整備されている。また、研究者の短期派遣は近年活発になっており、オープン・リサーチ・プロジェクト共同研究費が設けられている点も評価できる。

## 教員組織

### 教育学部

専任教員1人あたりの学生数は、少人数教育を実現しうる水準であると見なされる。ただし、専任教員の若返りが始まりつつあるとはいえ、児童教育学科で61歳を越える教員の占める割合が高い点、女性教員の割合が10%に満たない点は改善が必要である。また、新規任用では、公募がまったくなされていないことなど、手続きに粗略と思われる点が散見される。

## 施設・設備

### 教育学部

主として使用する教育学部棟を有するほか、理科実験棟、美術棟、音楽室・ピアノ実習室があり、コンピュータの設置も進んでおり、大きな問題はない。また、大学院学生専用設備の導入・整備も図られている。

「教員養成G P」に採択された事業によって設けられた教職キャリアセンターは、設備が充実しており、教職志望学生の多面的な相談に対応できる施設として評価できる。